

# 有機合成 分析セミナー

有機合成を業務とする方が直面するお悩みに

「反応条件の最適化」「データの一元制御」「分析時間の短縮」などはありませんでしょうか。それらお悩みの共通点に、煩わしい作業や時間が多く取られてしまうことがあります。本セミナーで紹介する機器や手法が皆様の業務効率に繋がるかもしれません。この機会に是非ご参加ください。

日時 **2023年12月20日(水) 14:00-15:00**

ツール Teamsライブイベント (WEBセミナー)

申込み 下記URLまたはQRコードから申込フォーム登録

<https://forms.office.com/r/HFSb4UeCwA>

参加無料。事前申込みが必要。途中参加/退室が可能です。

申込フォーム登録後、登録完了メールをお送りし、会議前にセミナーURLをメール送付します。

特典 アンケート回答者様にセミナー発表資料をメールでお送りします。



スマホでスキャン

## 第1部

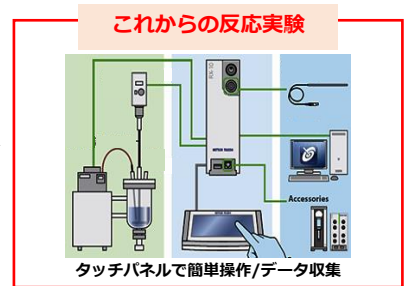
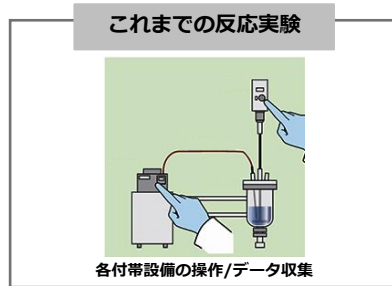
14:00-14:30 【旭製作所】自動反応装置 with Mettler Toledo “RX-10”



【こんな方におすすめ】

- ・実験条件を高い精度で制御したい
- ・データの収集を一元化したい
- ・無人化、昼夜連続運転したい

自動反応装置では、反応実験の自動化やデータ集約が可能です。これまでの反応実験では攪拌機・恒温槽などといった付帯設備をそれぞれ設定→運転→データ記録する必要がありました。これからは、反応実験に必要な付帯機器をタッチパネルから一元制御し、簡単に操作することができます。



## 第2部

14:30-15:00 【大塚電子】キャピラリー電気泳動の技術紹介



【こんな方におすすめ】

- ・前処理を出来るだけ減らしたい
- ・分析時間を短縮したい
- ・多成分を1台で分析したい

キャピラリー電気泳動装置 (CE) は、試料中の「イオン」や「有機酸などの有機分子」を分析できます。それらの分析は、液体クロマトグラフィー (HPLC) やイオンクロマトグラフィー (IC) を使うケースが一般的です。CEは「異なる成分を一台で一斉分析」したり「カラムや溶離液を使用しない」などの特長があり、分析時間の短縮が期待できます。

【装置比較】

	CE	HPLC	IC
前処理	希釈程度	多工程	多工程
分析時間	短い	長い	長い
メンテナンス	簡単	煩雑	煩雑
ラーニングコスト	安価	高価	高価